

令和5年度 第3回 区民との意見交換会 質問・意見及び当組合の考えについて

- 1 募集期間 令和6年3月1日（金）から3月11日（月）まで
- 2 質問・意見の件数6件
- 3 区民の皆様からの質問・意見内容及び当組合の考え

テーマ 一般廃棄物処理基本計画の改定に向けて			
No.	区民の皆様からの質問・意見	当組合の考え	回答所管
1	23区のプラスチック一括回収による資源化は見込んでいるようだが、23区でゴミ削減の数値目標を立てて、それに伴う「ごみ量予測」を算定すべき。	ごみ量予測は、23区と清掃一組で統一的な予測方法が定められており、この方法に基づいて予測を行っています。今回のご説明の中にもありますとおり、1人1日当たりのごみ量については、プラスチック資源化以外の部分も含めて減少を見込んでいます。一方で令和17年度までは人口増加が予測されていることから、ごみ量予測はお示ししたとおりの結果となりました。	企画室
2	大阪市や大多数の政令指定都市のように、資源化可能な紙類の清掃工場への搬入禁止措置など、他都市でできてなぜ23区でできないのか。改定検討委員会のなかでも議題にのせてほしい。清掃工場の組成調査から積算すると、23区の清掃工場では年間100万トンの紙類を焼却している。 性状調査の細項目から資源化可能な紙類は10%程度ある。焼却ゴミを徹底して減らせば、清掃工場の規模縮小も可能になるはず。施設整備計画のスケジュールを検討する前に、徹底したごみ減量の方策を検討すべき。	資源化可能な紙類への対策については、処理施設側のみで搬入を禁止すればよいという話ではなく、排出・収集段階からのルール化や受け皿となる資源化業界との連携などが不可欠です。第6次期計画の改定に当たって、資源化可能な紙類への対策など、さらなるごみ減量は重要な課題として認識していますので、23区ともきちんと議論をしていきます。	企画室
その他			
No.	区民の皆様からの質問・意見	当組合の考え	回答所管
1	「区民との意見交換会」について 意見交換会が継続して開催されてとてもありがたい。しかし、参加者が少なくとても残念だ。対面開催の参加者を増やす努力をしてほしい。最近、一組側の説明、質疑応答のあとは座談会風に意見交換もできるようになったのはいいのだが、あまりにも時間が少なすぎる。毎回、2時間と限定せずにもう少し開催時間を延長してほしい。また、映像配信はとてもよい試みだと思う、意見の受付も可能でなありがたい。以前は当日資料の公開もあった気がしたが、今は映像のみとなっている。何か差し障りがあるのか？	令和5年度第3回から参加者を増やす取組として、清掃工場で開催している個人見学会の参加者や運営協議会の参加者に案内チラシを配布して周知をしています。今後は、各区の環境イベント等で清掃工場が出展する際に、参加者にチラシを配布する等、参加者を増やす取組を継続していきます。 また、意見交換の時間をもう少し確保できるよう、運営方法を工夫していきます。 なお、対面開催当日の資料については、ご意見を踏まえ3月21日に説明文付きの資料を掲載しています。	企画室
2	搬入物検査について 委託業者は全工場の「搬入物検査」を1社が引き受けているのか？業者は入札で決めているのか？どのような委託契約か知りたい。 「予算のあらまし」の搬入物検査の写真に愕然とした。ゴミの山の上部は段ボールや紙類が満載で、焼却不適物でなくとも、資源化物が覆い被さっていて、そういうものを平然と清掃工場に燃やしている実態が明らかになっている。区収集であれば、持込ゴミであれば、23区と連携して資源化可能な紙類の清掃工場への搬入に何らかの対応をお願いしたい。紙類に限らず資源化可能なものは燃やさないルール作りをすべき。	当組合が実施する搬入物検査は、生ゴミ等を含むゴミ袋を破袋して検査を行う業務です。検査には公平性の観点から検査車両選別および検査時間の平準化などが求められるとともに、高い専門的知識と技術等を必要とします。そのため、公的機関であり全ての要件を満たしている東京都環境公社に特命随意契約で委託をしています。 各区では、区民および排出事業者に対し分別収集の徹底をお願いしているところですが、清掃工場へ搬入される廃棄物には、資源化が可能な紙類等の廃棄物が搬入されることもあります。当組合でも、清掃工場に搬入する収集運搬業者に対する指導で、分別収集の徹底を指示しています。さらに、排出事業者の分別が不十分で改善が見込まれない場合は、23区の清掃主管課や清掃事務所と連携して、排出事業者へ直接是正指導をしています。	管理課

3	<p>焼却灰の資源化</p> <p>処理量と予算額を単純に計算すると、年々処理単価が増大している。埼玉などの近場でも処理も可能になり、運搬コストも抑えられると思ったがそうでもないのか。船舶を利用する理由はコスト削減になるのか？</p>	<p>近年は、エネルギー価格高騰に伴う処理コストの上昇もあり処理単価が増加しています。また、資源化施設ごとに焼却灰の受入可能量が異なるため、必ずしも近場での処理量が増加しても運搬コストを抑えられるとは限りません。</p> <p>資源化施設への輸送は、鉄道、船舶、車両の3つの輸送方法を用いており、鉄道と船舶については主に遠方への輸送で活用しています。このうち船舶輸送は、自然災害時に発生する輸送トラブルが比較的少ない特徴を持っているため輸送面でのリスク分散を目的に活用しています。なお、船舶輸送では他の輸送方法と比べて一回の運搬量が多くなる特徴もあり、結果として輸送単価が安くなります。</p>	管理課
4	<p>中防不燃・粗大ごみ処理施設の整備について</p> <p>中防不燃・粗大ごみ処理施設整備工事は、事前にサウンディング型市場調査を行っていたが、優先交渉権者を選定するための公募型プロポーザル参加者の1者はそのサウンディング型市場調査に参加していたのか？ サウンディング型市場調査を実施することで、実際の整備事業にどのように提案が活かされているのか知りたい。</p> <p>世田谷清掃工場建替え工事に係るサウンディング型市場調査の目的が、民間事業者との対話を通じて前例にとらわれない「コスト削減の手法や最新技術の動向等を調査・検討するため実施」というのが残念だ。もちろん多額の税金を使っての建替え工事なので、コスト削減も重要な課題ではあろうが、コストよりも性能や安全重視での設計施工を望む。また、次の清掃工場建替などでは、焼却処理のみに頼らない技術提案などを調査してほしいものだ。</p>	<p>サウンディング型市場調査の参加者については、参加企業の知見やノウハウに関わるため、企業名や具体的な提案内容は非公表としております。サウンディング型市場調査を通じて、プラントメーカーの考え方により不燃ごみ等の処理方式や選別精度が異なることが分かりました。そのため、工事業者の選定に当たっては、プラントメーカーの技術力を最大限発揮しやすい公募型プロポーザル方式を採用しました。今後はプロポーザルでの提案内容を踏まえ、着実に整備工事を進めていきます。</p> <p>世田谷清掃工場建替え工事に係るサウンディング型市場調査においては、性能や安全面にはこれまでと同様に配慮するとともに、昨今の建築工事費の高騰における課題に対応するため、調査を実施したところです。清掃工場の建替工事の発注に当たっては、引き続き最新技術の動向を注視し、進めてまいります。</p>	建設課